

平成27年度用 小学校生活科教科書

せいかつ

わくわくせいかつ 上

わくわくいきいき

せいかつたんけんブック

いきいきせいかつ 下

61
啓林館

内容解説資料

未来を切り開く
ひらく
子どもたちへ

啓林館

『生活科』という教科と啓林館

1. 生活科ってどんな教科？(生活科の目標)

生活科は、平成元年の学習指導要領より、社会科と理科が廃止された代わりに新設されました。背景には、「思考と行動の未分化（考えながら行動する）」という低学年児童の発達特性」、「幼児教育と小学校教育の接続と発展」、「自然離れ、生活習慣・技能の不足」、「表面的な知識の伝達に陥りがちであった理科と社会科への反省」などの問題・期待を満足させるため、約20年の研究・協議を経てきた経緯があります。そして、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。」を目標として設定されました。

つまり、
こんな教科

生活科は、単純に社会科と理科を合体させた教科ではありません。また、座学において知識を習得する教科でもなく、子ども自身が身の回りの環境・人・ものや、動植物などに働きかけ、双方向にやり取りをする中で、様々なことに気付き、また、それらを通じて自分自身が適切に対象物とかかわったり、安心・安全に生活したりしながら、社会における一個人として自立し（学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立）、たくましく生き抜く力を身に付けることをねらいとした教科です。

そのため、一律に習得する知識の規定がない一方で、様々な教科と親和性の高い、核となる位置付けとなっています。また、活動を重視し、個々の気付きを大切にし、それを高めていくことが求められています。



2. 平成23年度～の学習指導要領の改訂のねらい

生活科の基本的精神は学習指導要領が改訂されてもずっと変わらずあります。改訂にあたっては、旧学習指導要領を実施する中で生じる問題点を軌道修正し、より成熟した生活科に向かうことがねらいです。平成23年度より実施の学習指導要領の改訂点のうち、大きなものは以下の部分です。

【旧学習指導要領】

子どもの「知的な気付き」を大切に

【新学習指導要領】

子どもの気付きは全て知的であって、
それをいかに高めていくか

気づきの質を高めるために、見付ける・比べる・たとえるなどの学習活動の重視と、生活や出来事で気付いたことを交流することなどが前面に出されました。

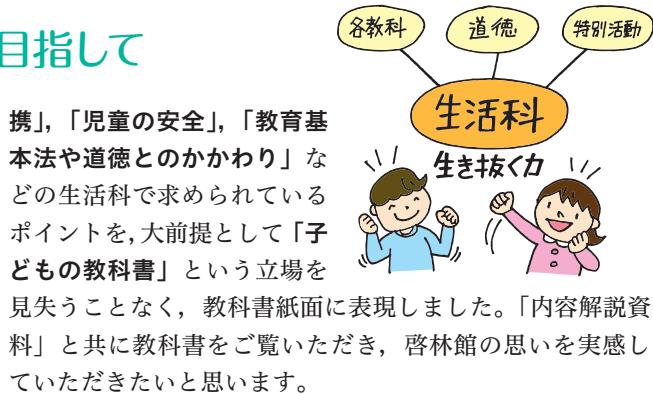


しかしながら、平成23年度より実践が開始されると、交流活動を重視するあまり、本来の活動（野外活動など）が、その後の交流活動を行うことを目的としたもの（発表するために調べるなど）も見受けられるようになりました。それをさらに改善すべく、「本来の活動そのものを重視し、そこから自然に発生する気付き、それを伝えたいという思いを尊重し、その思いから有意に交流活動が行われ、それを基にまた次の活動へと深まっていくようにすること（活動と表現活動のスパイラル）」が重要視されてきています。ほか、スタートカリキュラムの充実、幼保小の連携の推進に加え、東日本大震災などの子どもたちを取り巻く災害に、子どもたち自身が考えて行動ができるようにすることなどが求められています。

3. 子どもとともにいる啓林館教科書を目指して

左記経緯を踏まえ、学習指導要領の改訂時期ではありませんが、啓林館として教科書においてもより充実した生活科をサポートし、主体的な学びの素地をつくることができるよう、教科書内容を大幅に見直しました。

左記に挙げた「活動の充実と次の活動へのつながり」、「気づきの質の高まり」、「成長の実感と自立」、「スタートカリキュラム」のほか、「特別支援教育」や、「幼保小連携や上位学年、および他教科とのつながり」、「家庭・地域との連



編集の基本方針

“21世紀をよりよく、たくましく生きるために、人としてもつべき英知をみがくことのできる教科書”

- ① “児童にとって、関心と意欲をもって活動に取り組み、その成果を振り返りながら身の回りの人々と伝え合い、自己理解を深められる教科書”
- ② “教師にとって、活動の流れや支援の方策がわかりやすく、的確な児童理解によって学習活動を導くことができる教科書”
- ③ “保護者や身近な大人にとって、児童の学びや成長のようすが分かり、自立への基礎を養うための支援や助言の仕方が分かる教科書”

平成27年度版 小学校 生活科教科書のご提案

「わが社は、教育・学習に関する図書の出版を中心として事業を営み、人間教育、人類文化の向上に寄与する」

これは昭和41年に制定した弊社の憲章の一文です。弊社は創業以来、人間教育、人類文化の向上に寄与することを目指し、教育に関する出版活動一筋に邁進し、教科書・自習書・児童書の発刊に努めてまいりました。

その中心となる教科書づくりにおいては、一貫して「教育を通じてよりよい未来をつくる」という姿勢で臨み、現在に至るまで「算数、理科、生活科の啓林館」として親しんで頂いております。いつの時代であっても私たち人類が社会を生き抜いていくためには、よりよい世の中をつくることを追い求め、様々な課題を乗り越えて行かなくてはなりません。

私たち啓林館の願いは、子どもたちが学ぶ喜びを体感し、自らの未来を切り拓くための学力を身につけ、さらなる向上を目指してもらうことです。そして、私たち啓林館の使命は、教科

書づくりを通じて、そのサポートをすることです。

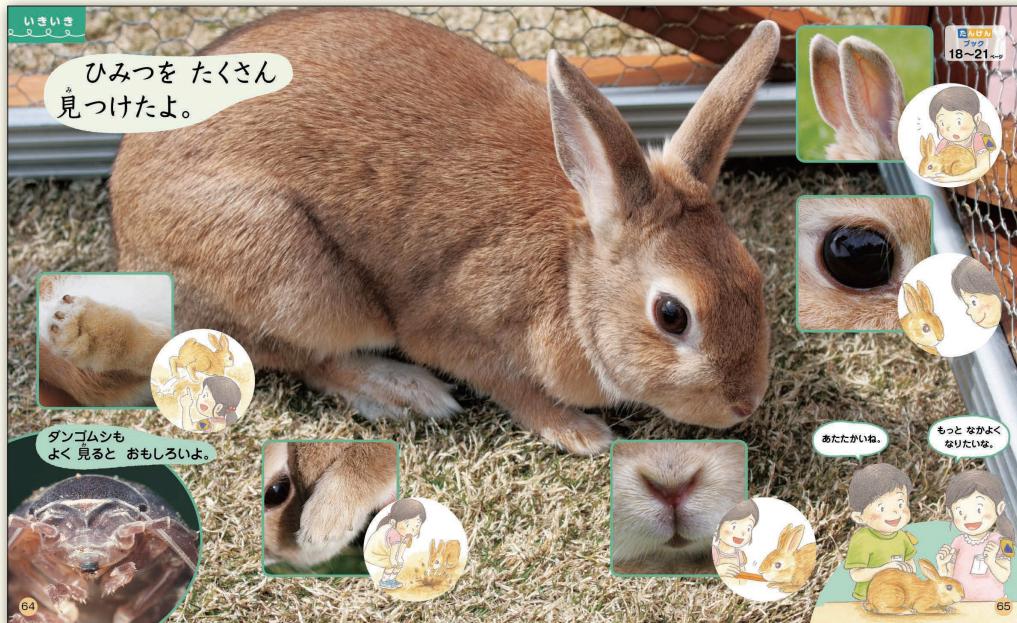
このたびここに、大きくりニューアルをはかった平成27年度版 小学校生活科教科書をご提案いたします。全国の先生方からお寄せ頂いた多くのご意見をもとに、様々な工夫や改善を施し、「未来を切り拓く子どもたちへ」という私たちの願いと多くの叡智をこの教科書に託しました。是非お手に取ってご検討賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

株式会社 新興出版社啓林館
代表取締役社長 佐藤 徹哉



子どものための教科書として

低学年児童にふさわしい情報量と視覚効果の高い
ダイナミックな写真を使用し、「読んでわかる教科書」から
「読んで、見て、わかる教科書」へと進化を遂げました。



入学間もない低学年児童に、無理なく小学校学習への導入ができるように、「子どものための教科書」を第1コンセプトとして情報量・文字情報の精選を行い、大きな写真で感覚的に訴え、必要な情報のみを整理して表現できる見やすいイラストで構成しています。

上巻 P.64~65

Qポイント!

旧版からの情報量の精選により、単元から外した情報は、巻末資料や別冊「たんけんブック」および、活動事例については教師用指導書といった何層にもわたるサポートで、多様な活動、資料を保障しています。

上巻 P.50~51





上巻 P.2~11



スタート★カリキュラム

上巻最初の単元は、スタートカリキュラムに対応させ、幼児教育からの接続、特別支援教育の観点（情報整理）を意識し、背景など情報量が多くなる写真は用いずに、イラストのみで展開しました。



学習指導要領 との関係

学習指導要領では、第1学年入学当初の扱いについて、生活科を核とした合科的な指導の充実が求められ、スタートカリキュラムの編成が効果的であることが解説されています。これは、改善の基本方針として「小1プロブレムへの対応」が求められたことによるものであります。生活科はこれから開始される小学校生活、全教科の学びの根幹を形成する役目を担い、その出発点となる最初の単元は特段の配慮を行いました。



活動の流れの明確化

子どもの思考が自然に流れるように、紙面構成を工夫し、活動を見て取りやすくなるように工夫しました。

4段階で深める

各単元（活動のまとめ）を、4段階の展開とし、活動の流れ、学習の深まりをわかりやすくするとともに、子どもにも理解できる表現にしました。



【わくわくパンタ】
わくわくすること
さがしに いこう。

【わくわく】（導入）

単元扉など、単元初期で子どもの意欲を
喚起する見開きで使用。



【いきいきウッキー】
いきいきげんきに
かつどう しよう。

【いきいき】（主となる活動）

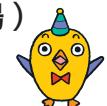
おもにメインとなる活動の見開きで使用。



【なるほどナルホー】
みんなで
つたえあおう。

【つたえあおう】（振り返り交流する場）

おもに振り返り活動や大きな交流活動の
見開きで使用。



もっといろいろ
やってみよう。

【ちゃれんじ】（広がり・深まり）

単元の最終段階で、活動をより深める
見開きや、小活動のコーナーで使用。



↑ 紹介は上下巻目次。本編では紙面左肩において表示（単元扉では導入写真左肩に表示）

学習指導要領 との関係

教科目標の趣旨として、子どもが身の回りの事象に働きかけ、得られた気付きが価値のあるものとして意味づけされることで次に向けて積極的に新たな働きかけを行っていくことが解説で示されています。そこで、教科書でも活動を単発のものにしないよう、生まれた気付きから次の活動へ自然と流れるように、単元のストーリーを大切にしました。その際、子どもの気付きを固定化しないように、活動の多様性も担保しています。

シンプルな情報

小単元タイトルと本文の位置づけを整理し、
低学年に無理のない情報量で活動を見て取れるようにしました。

●小単元タイトル（先生の投げかけ）

●本文（子どもの思い）



- 資料写真や各種コーナー
(「あぶない」、「こんなときどうしよう」など)を紙面右端を基本位置として整理。

上巻 P.54~55

深めてつなげる

子どもの活動は、「やって終わり」ではありません。

活動を深めて次につなげるよう、紙面右下で子ども同士のやり取りを設定しています。

上巻 P.89



- この後、秋のお祭り広場で、皆で楽しむ活動へ

上巻 P.95



- この後、冬の校庭での生き物さがしの活動へ

上巻 P.87



- この後、秋のおもちゃを作って楽しむ活動へ

上巻 P.101



- おじいちゃんとも伝え合います。
この後、昔遊びの活動へ



安心・安全への配慮

「子どもが安心して学校生活を送れるようになること」、
これは保護者の方のみならず、大人すべてが望んでいることであり、
生活科としても学習指導要領に示されるなど、
その役割を担っている面は大きいと考えています。



防犯・防災への配慮

上巻 P.8 ~9



上巻 P.59 (夏休み紙面)



別冊 P.44~47

登下校のようすや、夏休みなどの長期休暇、巻末資料のほか、
たんけんブックの紙面を利用して、自然災害への対応の仕方、
自分で身を守る術などを示し、大人が見守ることとともに、
子ども自身が危険回避の力を身に着けることを願っています。



上巻 P.132~133 (巻末資料)



別冊 p.44-47 は、上巻巻末 p.132-133 の内容
を、一部情報を補強したほか、避難場所を書きこんでおくなど、より野外で役立つものに再構成しています。

衛生面への配慮

下巻 P.16~17



衛生面も特段の配慮を行いました。

収穫した生野菜は、家庭での管理のもとで食べるよう促し、また、飼育動物については、環境省により要注意外来生物に指定され、ザリガニカビ病など衛生面でも不安のあるアメリカザリガニを掲載せず、より安全なバッタをメイン素材として位置づけました。



学習指導要領との関係

学習指導要領の生活科の内容においては、登下校の安全が明記され、また、飼育・栽培に関する部分においては、素材として子どもが安心して関わるもの、感染症などの病気の予防に努めることが解説されています。教科書でも全ての活動・基本的な日常生活を、子どもが安全に、安心して取り組めるよう配慮しました。

別冊の進化

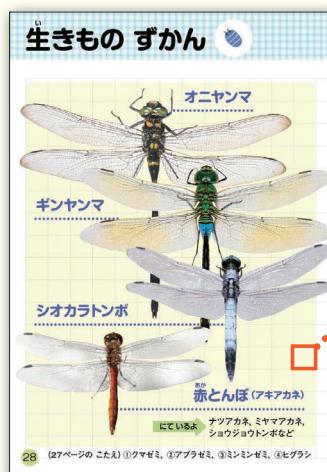
旧版「めいじんブック」の初登場から4年。
学校現場の先生方の声、改善要望を取り入れ、より子どものために、
より使いやすく、より役に立つ教科書「たんけんブック」として
リニューアルしました。



- たんけんバッグに
すっぽりと収まります。



- 「ひも」がつけられる
ように穴あけ加工を
施しました。



別冊 P.28

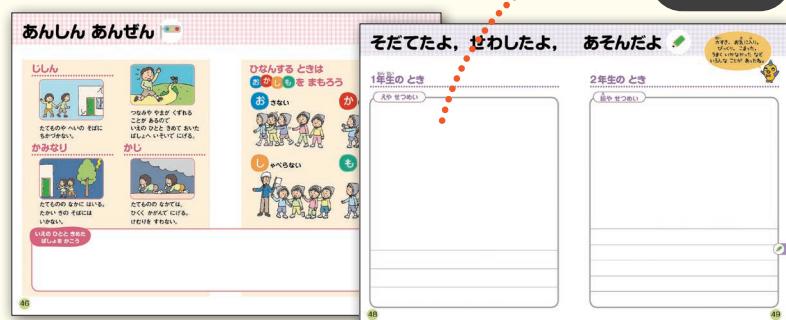
野外に特化した資料的教科書として
生まれ変わりました。

- 実物大の資料の
背景には1cm角の方眼を施しています。

別冊 P.14

- 書きこんでさらに自分だけの教科書になり、
愛着をもてるようになりました。

別冊 P.46~49



子どもの心に寄り添う生活科

道徳とのつながりを意識し、周りの大人からの思いや、
様々な対象への思いに気付かせ、
自己肯定感を養う詩のページを設定しました。



上巻 P.26~27



上巻 P.68~69



下巻 P.18~19

下巻 P.96~97



学習指導要領 との関係

学習指導要領の内容の取扱いにおいて、道徳との関連を考慮しながら生活科の特質に応じて適切な指導をすることが求められています。生きている喜びなど、情緒面での成長は、道徳も含め、自尊感情や自立心を養う上でも重要と捉えています。

『きせつのとびら』が復活しました

季節の節目にちょっと一息。上巻は子どもと自由にお話をしてみてください。

下巻は日本の行事について知るとともに、自分たちの住んでいるところの行事について、話をしてみてください。



上巻 P.56~57



上巻 P.92~93



下巻 P.46~47

下巻 P.74~75



教科書のひみつ大公開!

生活科の教科書には、生活科の活動を満足させるだけでなく、様々な配慮、遊び心を盛り込んでいます。ここではそのひみつの一部を紹介します。

ひみつ
1

時間は流れている!?

公園の様子などで、季節の風景の移ろい(定点観測の観点)を示す傍ら、そこに居る人たちの生活時間もちゃんと流れています。



春

上巻 P.45



秋

上巻 P.85

ひみつ
2

キャラクターのひみつ

今回のキャラクターは、今、子どもたちに人気の「怪談レストラン」の挿絵を担当した、たかいよしかず氏を起用しています。子どもたちに親しみのある、個性的なキャラクターたちと、生活科をお楽しみください。



ひみつ
3

目次のひみつ

目次がすくろく風になっていて、1年の流れを追っていける仕掛けになっていますが、さらにもう一工夫。上巻と下巻がつながります！



内容解説資料 付録CDについて

- 付録CD-ROMにデジタル教科書の機能の紹介を収録しています。
【start.html】をクリックしてご覧下さい。
(動作環境)
【OS】WindowsXP/Vista/7/8 (デスクトップモード)
【ディスプレイ】WXGA(1280×800)以上
【ブラウザ】Microsoft Internet Explorer8以上
【実行環境】FlashPlayer 10.3以上
- 以下の各ファイルもCD-ROMに収録しています。
・学習指導要領との関連
・観点別特色一覧表
・年間活動計画

启林館

本社 〒543-0052 大阪市天王寺区大道4丁目3番25号 Tel.06-6779-1531
札幌支社 〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条2-6-1 Tel.011-842-8595
東京支社 〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目3番10号 Tel.03-3814-2151
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-4-34 双栄ビル2階 Tel.052-935-2585
広島支社 〒732-0052 広島市東区光町1-7-11 広島CDビル5階 Tel.082-261-7246
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目5番6号 Tel.092-725-6677

<http://www.shinko-keirin.co.jp>

平成27年度用 内容解説資料

